

# やまがた公益大賞 10周年記念誌

平成28年11月

山形県

## 「やまがた公益大賞10周年記念誌」の発行に寄せて

山形県NPO推進委員会委員長

東北公益文科大学 教授 武田 真理子 氏

「やまがた公益大賞10周年」を迎えるにあたり、山形県及び関係者の皆様に心より御祝いを申し上げます。

公益大賞は、「優れた公益活動を顕彰し、広く県民に紹介することによって、NPOやボランティア活動への県民の関心を高め、公益活動を一層活性化していくこと」を目的とし、平成19年度に創設されました。以来、県内で活躍する特定非営利活動法人、高等学校のクラブや研究会、ボランティア・サークル、地縁組織、任意団体など多様な形態の公益活動実践者が表彰されて参りました。連帯、支援、調和を原点とする公益原理に基づく活動や政策の研究と教育に取り組む東北公益文科大学としてはこの取り組みには大きな期待を寄せており、「やまがた社会貢献基金」の創設とあわせて全国に先駆けた施策を展開されてこられた山形県の皆様に御礼申し上げます。



現在の日本社会は世界で最も急激な速さで少子高齢化と人口減少が進んでいます。自ずと行政、企業、地域社会等の既存組織の役割が変化しようとしています。私たちがこれからも住み慣れた地域で暮らし続けるために、或いは後世にとってもより良い暮らしを実現するためには、多様な地域課題解決のための新たな方法、担い手、つながりや価値の創造が求められています。これまでの公益活動は一見当たり前と思われる、目立たない、地道な実践も数多くありましたが、いまこそ、それらの活動の評価や見直し、そして新しい時代ならではの発想やつながりに基づく新たな実践を生み出すことが望まれています。

他者のため、皆のためであると同時に自分のためにもなり、将来世代のことも考えながら、多くの人や組織との連携や協働に基づく公益活動がより多くの地域に根付き、山形県が日本一元気で、暮らしやすい場所になることを祈念しております。

平成28年11月

# 目次

## ■「やまがた公益大賞10周年記念誌」の発行に寄せて

山形県NPO推進委員会委員長  
東北公益文科大学 教授  
武田 真理子 氏

## ■やまがた公益大賞グランプリ受賞団体の活動

山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会	3
特定非営利活動法人子育てネットワークバルボンさん	4
特定非営利活動法人With優	5
特定非営利活動法人東北青少年自立援助センター	6
特定非営利活動法人いぶき	7
ボランティアサークル日曜奉仕団	8
認定NPO法人ひらた里山の会	9
グループ農夫の会	10
山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ	11
あいらぶ末広 楽市楽茶	12

## ■やまがた公益大賞受賞団体一覧

やまがた公益大賞受賞団体一覧	15
やまがた公益大賞応募及び受賞団体数	22

## ■資料編

やまがた公益大賞選考委員一覧	25
平成28年度やまがた公益大賞選考基準等（参考）	29

---

# やまがた公益大賞グランプリ

## 受賞団体の活動

---

山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会 (川西町)

特定非営利活動法人子育てネットワークバルボンさん (新庄市)

特定非営利活動法人W i t h 優 (米沢市)

特定非営利活動法人東北青少年自立援助センター (上山市)

特定非営利活動法人いぶき (酒田市)

ボランティアサークル日曜奉仕団 (寒河江市)

認定NPO法人ひらた里山の会 (酒田市)

グループ農夫の会 (山形市)

山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ (上山市)

あいらぶ末広 楽市楽茶 (山形市)

※受賞年度順

《平成19年度グランプリ受賞団体》

## 山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会（川西町）

駅・街活性化で育んだ高校生の公益活動

（活動期間：平成19年4月～）

### ■ 活動の背景・目的

JR米坂線の羽前小松駅は、1982年から全国初の町民駅として有人のままJR東日本の簡易委託駅を続けてきました。しかし、乗車券販売収入の減少等により町の助成金額が増大し、見直案が浮上したことから、「このままでは、町民駅の無人化や営業時間の短縮につながり、交通弱者である高校生や老人に悪影響が出てしまう。」と考えた本校の生徒たちがみずから活動を始めました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

JR羽前小松駅の無人駅化を防ぐため、生徒たちは駅前でアンテナショップを開設し、駅や米坂線の利活用を町民や利用者に訴え始めました。また、駅はコミュニティの拠点としても重要な意味を持つと考え、「駅C a f e」や「駅なか歌声喫茶」など、地域住民と連携したイベントを企画運営し、駅再生や地域活性化に取り組みました。

### ■ 現在の活動及び課題

この活動は後輩達に引き継がれ、団体名は「チームAgriction」と変更されたものの、活動は現在も続き、羽前小松駅は高校生と地域住民が一緒に設立したNPO法人が、有人のまま運営を継続しています。

また、駅を拠点としたまちづくりも進み、新駅舎の完成、駅前通りのチャレンジショップ開店、交流プラザの開設が実現しました。さらに、首都圏住民との交流による来訪者の増加や、都内アンテナショップ開設による地元産品販売など、高校生と住民が一体となった地域再生の道を歩んでいます。課題は、活動資金の調達と地学連携にあると言えます。

### ■ 今後の活動の展望

生徒たちの活動は、住民と一体化した地域おこしとなって成果を上げました。平成27年度あしたのまち・くらしづくり活動賞では、高校生と住民の活動をまとめた内容が評価され、申請者のNPO法人えき・まちネットこまつが内閣総理大臣賞を受賞しました。今後は、地域と学校が連携する「地学連携協定」を結びながら、魅力ある農村地域や農業高校の実現に向け、首都圏も含めた活動を展開します。



【新駅舎の竣工式】



【チャレンジショップの開店】

〒999-0121

東置賜郡川西町大字上小松 3723

山形県立置賜農業高等学校 チーム Agriction

TEL : 0238-42-2101 FAX : 0238-42-2103

E-mail : [eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp](mailto:eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp)

(連携団体 NPO 法人えき・まちネットこまつアドレス)

《平成20年度グランプリ受賞団体》

## 特定非営利活動法人子育てネットワークバルボンさん（新庄市）

読み聞かせを柱にした子育て支援と生涯学習社会の充実

（活動期間：平成14年4月～平成23年3月）

### ■ 活動の背景・目的

読み聞かせや生涯学習の推進が、人づくり・まちづくりの基礎になることを再認識した有志と共に、平成14年4月、任意団体として出発し、同年12月にNPO法人を設立しました。

読み聞かせ実践活動を柱とし、赤ちゃんから青年期を視野に子育て支援や学びあいを行い関係機関と連携を図りながら、生涯学習社会の充実と新たな読書環境向上に努めることを目的としました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

研修を通じた人材育成や講演会等による読書推進の啓蒙・啓発活動、「最上地区読み聞かせ連絡協議会」でのネットワークづくり等を通して、新庄・最上地域における読書推進の中間支援組織として活動しました。更に「新庄市学校図書館支援センター推進事業」を実施し、当団体・図書館ボランティア・司書の三者で設立した「市民ネットワーク図書館サポート・とらいあ」での市立図書館一部業務委託を行いました。

### ■ 現在の活動

「市民ネットワーク図書館サポート・とらいあ」は、平成22年に法人格を取得し、「一般社団法人とらいあ」となりました。それを機に、平成23年3月にNPO法人子育てネットワークバルボンさんを発展的に解散しました。

現在、「とらいあ」は新庄市立図書館の指定管理事業、新庄市学校図書館支援関係事業等を実施しております。「図書館がまちをつくる！読み聞かせからはじまる人づくり・まちづくり」をテーマに、子どもや市民のための読書や生涯学習推進、研修等による人材育成、講師派遣のほか、k i t o k i t oマルシェや100円商店街での事業も行っています。

今後とも、行政や学校、地域等と連携・協働し、読書や生涯学習、図書館の新しい可能性を追求していきます。



【まちなか絵本・紙芝居コーナー（百縁商店街）】



【武田美穂さんの絵本ライブ i n 新庄  
（最上地域みんなで読育推進事業）】

〒996-0081 山形県新庄市中道町16番地1

代表理事 本澤 昌紀、副代表理事 大場 千賀子、副代表理事 高山 恵美子、常務理事 高橋 一枝

連絡先(新庄市立図書館) TEL: 0233-22-2189 FAX: 0233-23-6183

(現在は「一般社団法人とらいあ」として活動中)

# 《平成21年度グランプリ受賞団体》 特定非営利活動法人W i t h 優（米沢市）

支え合い、補い合える地域づくりへの挑戦

（活動期間：平成19年5月～）

## ■ 活動の背景・目的

この活動は、代表の白石が社会に出てから感じた学校教育と現実の社会のギャップ、みずからの生き方や社会人として社会から求められるあり方についての葛藤、そして友人の自死等の経験を踏まえ、また学校での勤務経験を経て子どもたちが直面する課題と向き合う中で、どんな子どもも大人も、地域に自分を認めてくれる居場所があることを見出し、それぞれが出番を作れる地域を築いていくことを目的に始めました。

## ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

学校に行けない・行かない事を選択した子どもたちの学びと生活の場であるフリースクールを月曜から金曜日まで毎日運営しました。また、毎週土曜日は子ども達の就労体験の場として、地域の方も日常を離れて「ほっ」と出来るカフェレストランを運営しました。さらに、学校に通っている子どもたちの体験活動の場として野外教室を毎月実施しました。

## ■ 現在の活動及び課題

毎日開所し、学習支援も行うフリースクールは県内唯一であり、県内全域から生徒の登録を受け付けています。

また、現在最も規模が大きい事業は若者の就労支援事業で、実人数で100名以上が利用しています。

さらに、地域で子ども・若者を支え、互いに繋がれる場として、米沢市内で会員制の居酒屋と駄菓子屋を地域の方からの寄付によりオープンし、運営しています。

現在の課題は、不登校・引きこもり支援に関する継続した補助金等はないものの専門的な支援を求められることから、スタッフが職業として支援を行うための保障と人材の育成です。

## ■ 今後の活動の展望

運営面で継続していくことの難しさを抱えているフリースクールですが、子どもたちを継続して支えていくための地域事業所ネットワークの構築に現在挑戦しており、行政になるべく頼らずに運営していくための取り組みに挑戦しています。

また、働きたい若者の中間就労の場づくりや雇用の創出等に地域の事業所と連携して挑戦し、これまで以上に地域を巻き込み子ども・若者が地域で生き生きと活動できる地域社会を目指していきます。



【若者の就職を会員の皆さんとお祝い

@会員制居酒屋結】



【駄菓子で繋がる地域の輪 @駄菓子屋あっあい】

〒992-0075

米沢市赤芝町字川添 1884 番地

代表 白石 祥和

TEL : 0238-33-9137

HP アドレス : <http://www.with-yu.net>

《平成22年度グランプリ受賞団体》

## 特定非営利活動法人東北青少年自立援助センター（上山市）

不登校、引きこもり等青少年の社会的自立への支援活動

（活動期間：昭和61年4月～）

### ■ 活動の背景・目的

昭和50年代から不登校、非行など青少年の問題が全国各地で社会問題化し、不登校は長期化し引きこもりへ、非行は犯罪や反社会勢力との結びつきを強め、一人の若者とその家族の将来を閉ざす看過できない状況にありました。都内で共に教職にあった夫婦が、この問題の根深さと学校現場での対応に限界を感じ、自然豊かな蔵王の地での共同生活による自立支援にその打開策を求めて、この活動を始めました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

不登校、引きこもり等により社会的自立が困難になっている青少年に対して、蔵王の恵まれた大自然の中での集団生活、共同生活を通じ、社会的自立への援助を行うとともに、保護者への子育てに関する相談・研修事業を行い、不登校や引きこもり等の状況から脱却する機会を提供しています。

### ■ 現在の活動及び課題

現在に至るまで基本的な活動内容に変わりはありませんが、対象者の高年齢化や社会性の著しい低下など、時代背景の変遷とともに、当センターへやってくる若者の質も変わり続けており、それらの変化に柔軟に対応すべき部分と、決して変えてはならない部分とを見極めながら活動を継続しています。

また学校や医療機関、福祉施設、サポステ等と違い、公的な資金援助が皆無の中での活動は財政的に極めて厳しいことから、スタッフの給与等の改善や財政の安定が喫緊の課題です。

### ■ 今後の活動の展望

活動の内容自体が、子育てや教育に準ずるものであり、特に目新しい事を始めるものではないと考えています。従って、基本的にはこれまで33年間の経験と実績を基に、発達障害等への知識を深めつつさらにその精度を上げ、より確実に生きる力を身に付け社会の中で独り立ち出来る若者に育つよう真摯に向き合う事を継続します。

財政的な課題に対しては、短期的には助成金の活用等、中長期的には国や地方行政へ補助制度創設の働きかけを強化します。



【秋期保護者会にて、親子で稲刈り】



【樹氷をバックに。身体を動かす事で心も元気】

〒999-3114

上山市永野字蔵王山2561-1

理事長 岩川 耕治

TEL：023-679-4005

HP アドレス：<http://www.tohoku-ysc.org/>

《平成23年度グランプリ受賞団体》

## 特定非営利活動法人いぶき（酒田市）

生きがいと絆を育む地域ささえあい事業

（活動期間：平成20年1月～）

### ■ 活動の背景・目的

少子高齢化、個人の価値観の多様化及び地域社会の変化により、世代にかかわらず社会的孤立が深刻な課題になっています。このような背景のもと、当法人では子どもたちが発信者となり地域の方々の活動を巻き込み、共に活動することにより、大人も子供も互いに育ちあう環境と人とのかかわりを大切にした地域づくりを目指して活動を展開しています。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

子どもたちを中心に、地域の方を巻き込んだ体験活動等を通し、子どもの自然や地域を愛する心を育むとともに、大人も子どもも互いに育ちあう環境と、人と人との関わりを大切にした地域づくりに取り組みました。

具体的には、チャレンジキッズ事業として子どもたちを対象とした自然体験活動を年間通じて開催したほか、ただゴミを拾うだけではなく、遊びや楽しみを取り入れた清掃活動であるゴミデーハイキング等を実施しました。

### ■ 現在の活動及び課題

現在に至るまで継続して地域の方々の巻き込んだ子どもたちの体験活動を年間通じて開催しています。

また、地域の空き家を活動拠点に、放課後の児童の見守り活動を行い、また高齢者にボランティアとして参加していただくことで高齢者の居場所を提供し、異世代の交流ができる場を設けています。

さらに、現在は高齢者が中心となって食堂を運営し、生きがい、やりがいを生み出すとともに、自ら交流する機会を創出しています。

現在の課題としては、代替りしていくコミュニティ組織との連携や、新たな地域資源の発掘と近隣地域への活動の拡大です。

### ■ 今後の団体の活動の展望

地域コミュニティという大きな組織の中に、自主性と目的をもった新たな小さなコミュニティを創出し、地域の暮らしの安心を守る「心の大きな拠り所」となる活動の拠点づくりを目指しております。これからも未来を担う子どもたちの健全育成と地域との繋がりを深めるための活動を継続していきたいと思っております。



【「火おこし名人に習え！」

おばあちゃんは火おこしの名人！】



【高齢者が運営する食堂「ふれあい処いぶき」

味の決め手は思いやり！】

〒999-8232

酒田市市条字村ノ前 48-1

理事長 星川 龍一

TEL：080-638-6541

E-mail:npo.ibuki@amail.plala.or.jp

《平成24年度グランプリ受賞団体》

## ボランティアサークル日曜奉仕団（寒河江市）

被災地復興支援活動及び避難者支援活動

（活動期間：平成23年4月～）

### ■ 活動の背景・目的

古今未曾有の大災害となった東日本大震災、初めて訪れた災害現場は異臭と土ぼこりにまみれ、被災地は悲しみと不安に包まれていました。「私たちは何をしなければならないのだろう？お金は無い、時間も無い、でもやる気だけはあある・・・」そんな思いから、被災地でのガレキ撤去などの活動をスタートさせました。そして、寒河江市に避難された方々が、知らない土地でも安心して生活できるように支援活動を同時進行させるに至りました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

宮城県石巻市、福島県只見川水害でのガレキ撤去作業を実施し、また岩手県陸前高田市へボランティアバスを運行し、ガレキ・泥の撤去、草刈りや畑作りなどの復興支援を行いました。また、ボランティアに参加出来ない方を対象に「被災地復興応援ツアー」という観光ツアーを開催しました。さらに、寒河江市内へ避難された方を対象にお茶会などのコミュニティ作りのお手伝いを行いました。

### ■ 現在の活動及び課題

陸前高田市へのボランティアバスは、のべ1,000名ものボランティアを被災地へ送り、平成26年12月まで継続した後、ニーズの減少と共に終了致しました。

現在、日曜奉仕団はNPO法人やまがた絆の架け橋ネットワークとして避難者の交流事業や帰還・定住支援などの活動を継続しております。

また、被災地での活動経験を活かし、茨城県常総市の水害や熊本地震の支援活動にも従事、新たな経験を得ることで山形県内の地域防災に貢献すべく活動を行っております。

### ■ 今後の活動の展望

山形県は比較的自然災害の少ない県と言われていますが、一方で災害が発生した場合の備えに遅れがあるようにも思えます。いざという時に被害が最小限にとどまるよう防災・減災活動を推進していきます。

また、東日本大震災の県内避難者は年々減少しているものの、継続して県内に定住を希望する方も多く、帰還する方、定住する方、それぞれのライフワークに応じた支援を継続し、やがては福島との地域間交流を活性化していきたいと考えております。



【側溝の泥出しの様子】



【避難者・帰還者さくらんぼ交流会】

〒991-8501

寒河江市大字西根字石川西 355

村山総合支庁西庁舎附属棟

代表 早坂 信一

TEL : 0237-85-1080 FAX : 0237-85-1071

（現在は「NPO法人やまがた絆の架け橋ネットワーク」として活動中）

《平成25年度グランプリ受賞団体》

## 認定NPO法人ひらた里山の会（酒田市）

酒田の孟宗竹 / カキ棚支援プロジェクト

（活動期間：平成23年7月～）

### ■ 活動の背景・目的

定期的実施されてきた里山保全活動に支障がでており、竹林や杉林をはじめ、景勝地までも里山の機能を損ねている現状を改善することを目的とし、活動を開始しました。整備の際に発生する間伐竹はカキ棚材として、残材は竹炭に変え燃料や土壌改良材に、木材は燃料やチップ敷の遊歩道に利用することで里山資源の利活用による中山間地の活性化を図っています。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

松島町のカキ棚材が津波で流失し、原発事故の影響により福島から搬出できず不足していたことから、平成24年12月に孟宗竹を500本、翌年3月下旬に250本を大型トラックで届けています。荒廃竹林を整備するとともに地元でできる復興支援ということで、小中学校や多くの市民ボランティアが竹間伐や枝払いに参加してくれました。

### ■ 現在の活動及び課題

景観阻害を改善する里山保全活動、子どもを対象にした自然体験学習及び里山でのトレッキングなどの各種イベントを中心に毎年4月中旬から11月下旬まで活動しております。

理事会は毎月1回開催し、事業の調整を行っています。会報の「さとやま通信」は年4回発行し、関係団体にもメールで配信し情報を提供しています。会員交流会は年3回開催し、会員同士の交流が活発になるようにしています。現在会員数は個人128名、法人6社です。

若い会員加入と専従事務局職員を雇用できる法人の体質強化が最大の課題です。

### ■ 今後の団体の活動の展望

衰退する中山間地の支援は多岐にわたり、減少する傾向にありません。行政とNPOによる中山間地の支援活動の役割を見直さなければ、NPOの公益活動は、減少していくか継続できない状況になります。

成長拡大から循環継続へと変化する時代に中山間地域の役割は重要だと考えます。

これからも自然豊かな景観形成を保全する作業と、未来を担う子供たちに自然の大切さや素晴らしさを体験できる事業を実施してまいります。



【子どもたちとの自然観察会】



【松島のカキ棚材へ「よいっしょ！」】

〒999-9701

酒田市砂越字上川原 459-2

代表 佐藤 忠智

E-mail : [tadatomo@maroon.plala.or.jp](mailto:tadatomo@maroon.plala.or.jp)

<https://www.facebook.com/hiratasato>

事務局 携帯：080-2833-1320

月・金 10:00～15:00 水 13:00～17:00

E-mail : [nposatoyama@amail.plala.or.jp](mailto:nposatoyama@amail.plala.or.jp)

《平成26年度グランプリ受賞団体》

## グループ農夫の会（山形市）

山形県山辺町「大蕨棚田」の元気再生  
（活動期間：平成23年3月～）

### ■ 活動の背景・目的

大蕨棚田は日本棚田百選にも認定された地域の誇る貴重な文化と環境の財産です。しかし、ここ数年農業従事者の高齢化や後継者不足等により耕作放棄地が増加し、棚田の存続が危惧されていました。この大蕨の棚田の元気再生を目的に平成23年3月より活動をはじめました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

平成23年に地元生産者の「中地区有志の会」とボランティア団体の「グループ農夫の会」を立ち上げ、地域密着を理念とするサッカーJリーグ「モンテディオ山形」とともに「モンテと一緒に棚田米をつくり隊」として、楽しみながら棚田の元気再生に取り組みました。

### ■ 現在の活動及び課題

大蕨棚田を象徴する原風景である稲の杭掛けにより自然乾燥した棚田米を、「モンテ棚田米」「大蕨棚田米」の商品名で販売して、その売上げを原資に再生事業を展開しています。

また、地域活性化のため、田植え、稲刈り、脱穀取入れ、雪中棚田サッカー等のイベントを開催し、地域外との交流人口の拡大をはかっています。

### ■ 今後の活動の展望

楽しくをモットーに、モンテディオ山形との協働による米づくりや、棚田を舞台とした「棚田でダンスと音楽」を継続して開催します。また、菜の花、彼岸花を植えて景観づくりを図っていくなどの活動により、魅力的な大蕨棚田をめざしています。

〒990-2464  
山形市高堂一丁 8-35  
代表 稲村 和之  
TEL：023-643-8800  
HP アドレス：<http://www.group-nofunokai.jp/>



【モンテと一緒に棚田米をつくり隊】



【大蕨棚田元気再生のフローチャート】

《平成27年度グランプリ受賞団体》

## 山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ（上山市）

桑から広がる農地復興プロジェクト

（活動期間：平成25年3月～）

### ■ 活動の背景・目的

この活動は、東日本大震災で大きな被害を受けた被災地を、桑の活用を通して復興の手助けをしたいとの考えから始まりました。桑は塩害に強く、波をかぶった土地でも育ち、また乾燥や病害虫に強いという環境耐性能力を持つことに着目し、震災後に変わり果ててしまった農地の環境保全に貢献していくことを目的に研究を進めてきました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを獲得した活動の内容

桑の耐塩性を証明し名取市への植栽を普及し環境保全の輪を広げるとともに、桑の葉の有効活用を図り、持続可能な農地を再生することを目標に掲げ、上山市と姉妹都市の関係にある宮城県名取市の方々と協力して活動してきました。

また、栽培方法と桑葉の有効活用について検討し、挿し木により活着率（苗や挿し木が土に根付く確率）を上げる方法を研究し、桑の葉ドーナツを開発、販売するなどして、環境保全としての桑と、食品素材としての桑の葉を普及することができました。

### ■ 現在の活動及び課題

桑は塩害にも強く、過酷な環境においても生育できることが分かりました。また、その葉をパウダーにすることで、多様な加工方法に適応できるようになりました。しかし、土地を「再び耕す」と考えたとき、数年で人の背丈を越す程まで成長し、土中に太く根を張る桑の木は、現場において最適とは考えられません。現在は、より除塩効果が高く、農地として使用する際に多くの労力を必要としない農業資源はないものか模索しています。

### ■ 今後の活動の展望

これまでの活動を通して、農業資源の多様性に改めて気付くことができました。桑の除塩効果を証明することや桑の葉を食用として用いるなど、普及活動にも力をいれることで、農業を活気づけ、地域を元気にすることができたと思います。今後は、桑以外の農業資源にも広く目を向け、高校生の視点だからこそできる活動を目指します。豊かな大地を守ることは、21世紀を生きていく私たちの使命であるという意識を常に持ち、これからも活動に励んでいきます。



【挿し木の様子】



【宮城県農業高校のみなさんと定植作業】

〒999-3193

山形県上山市仙石 650 番地

校長 寒河江 茂

TEL : 023-672-1700

《平成28年度グランプリ受賞団体》

## あいらぶ末広 楽市楽茶（山形市）

あいらぶ末広 楽市楽茶

（活動期間：平成27年7月～）

### ■ 活動の背景・目的

東日本大震災後、防災意識が高まりつつある今、災害時は勿論、日頃から隣町の方でも顔を見知っていて手助けができるまちづくりをめざすとともに、お年寄りや障害を持つ方、子供、若者、そうした方々を支える大人たちなど、近所に住む皆が何より安心して気軽に交流できる場を作りたい。そんな願いで「顔が見える町」を合言葉に、平成27年から町内会長を中心として活動を始めました。

### ■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

末広集会所を中心に、常設の青空市場ではNPO法人の「山形自立支援創造事業舎（みちのく屋台こんにやく道場）」や「ぶどうの家」提供によるこんにやくの振舞いと、クッキーや野菜類等を販売しております。また、認知症予防体操、フリーマーケット、歌とギター演奏を聴く会、手品、末広町の昔を語る会、漢字の成り立ちのお話、野菜いっぱいの豚汁作りを行っているほか、山形西高等学校による運動部の部活体験、文化部の展示や活動内容の紹介などの企画を行いました。

### ■ 現在の活動及び課題

平成27年、28年は年4回ずつ集会所で活動を行いました。参加者からは、障害者の方と初めて話が出来たとの声も寄せられています。平成28年からは、隣町の山形西高等学校生徒会の皆さんにも参加していただき、組織の雰囲気や活動の規模が大きく変わり、また参加した西高の仲間の意識にも変化が生じたという声もありました。

今のところ、高齢者の参加が多いので、今後若い世代の参加を促しつつこの活動を続けることで、こうした交流を更に広めていくことが大切だと考えています。

### ■ 今後の活動の展望

この活動は短期間で結果が出せる性質のものではなく、息の長い取り組みとして今後も継続していかねばならない事業です。その為には町内会の有志及び協力者がその都度、新たな生き生きとした工夫を出し合うと同時に、次世代の後継者を育ててバトンをつなぐという意識と心配りを持続する必要があります。



【介護予防体操（いきいき百歳体操）の風景】



【皆で作った豚汁を食べながら歓談する風景】

〒 990-2321

山形市桜田西 4-1-14

（事務局：地域包括支援センターふれあい 椎名 敏）

代表 津野尾 巖

TEL：023-628-3988

---

# やまがた公益大賞受賞団体一覧

---

やまがた公益大賞受賞団体一覧

やまがた公益大賞応募及び受賞団体数

---

## やまがた公益大賞受賞団体一覧

※受賞時の団体名を掲載しております。

### 2007年（平成19年度）

活動名	団体名	活動の概要
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グランプリ</div> 駅・街活性化で育んだ 高校生の公益活動	山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会 (川西町)	JR羽前小松駅の無人駅化を防ぐため、生徒らがアンテナショップの開設運営、地域住民等とも連携した各種イベントの企画運営により、地域の活性化に取り組んだ。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> 地域づくり推進活動	特定非営利活動法人 きらりよしじまネット ワーク (川西町)	地区全世帯でNPOを構成し、地域一体で社会教育、防犯・防災活動に取り組むほか、地区のコンビニと協働し、朝市を開催するなど経済活性化にも取り組んだ。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> 市と協働による 子育て支援関連活動	特定非営利活動法人 クリエイトひがしね (東根市)	東根市の子育て支援施設「タントクルセンター」の管理運営に加え、母親相談会、子育てに関わる様々な世代に向けた研修会、イベント等を主体的に企画・運営した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> 学習障害・注意欠陥 多動性障害児等へ広 域支援	特定非営利活動法人 庄内アインシュタイン の会 (鶴岡市)	社会の支援体制が不十分な頃から、LD児やAD/HD児等の療育等について試行錯誤を重ね、様々な調査・研究、相談支援等を主体的かつ先進的に実践した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> ハタハタ増殖活動	特定非営利活動法人 みなと研究会 (酒田市)	地域資源であるハタハタの保護に向けた産卵環境の整備等のため、地域の小学校、大学等とも連携し、研究活動や市民への啓発活動等を主体的に実践した。

### 2008年（平成20年度）

活動名	団体名	活動の概要
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グランプリ</div> 読み聞かせを柱にし た子育て支援と 生涯学習社会の充実	特定非営利活動法人 子育てネットワーク バルボンさん (新庄市)	読み聞かせから始まる人づくり、まちづくりを合言葉に、子育て・まなびあい事業、生涯学習推進のための研修事業等を実施。最上地域におけるネットワークづくり、中間支援を行った。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> 介護認定者等に対す る福祉有償運送事業	特定非営利活動法人 かみのやま福祉運送 サービス (上山市)	介助なしでは交通機関を利用できない方等の通院や買い物等を支援するため、有償で福祉運送サービスを実施。利用者から信頼を得て、利用会員、運行回数とも増加した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公益大賞</div> 「最上川・街道・三賢 者」による山形県の観 光振興	元気で楽しいまちづく りネットワーク (元気・まちネット) (東京都墨田区)	源義経、イザベラ・バード、松尾芭蕉がたどった県内ルートを踏査・検証。山新観光と協働で追体験の旅の企画や山形と東京でのシンポジウムの開催等により、山形の魅力を全国に発信した。

<p><b>公益大賞</b></p> <p>演劇活動を通じた公益活動</p>	<p>山形県立庄内農業高等学校映画・演劇部 (鶴岡市)</p>	<p>特別養護老人ホームでの公演、地域での創作防犯演劇上演、藤島中学校の演劇指導など、演劇を通して地区の活性化に貢献。スマトラ沖地震被災遺児を支援するチャリティ公演も実施した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>まほろばの里の森づくり活動</p>	<p>まほろばの里の森を育む会 (高島町)</p>	<p>高島駅南西側の放置されていた杉林を地域の里山「まほろばの森」として再生。CO<sup>2</sup>の固定化に繋がるケナフの植栽を行い、手入れ、育成、収穫、利用までを一貫して実施した。</p>

## 2009年(平成21年度)

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>支え合い、補い合える地域づくりへの挑戦</p>	<p>特定非営利活動法人 With優 (米沢市)</p>	<p>ひきこもりの若者を対象としたフリースクールを地域づくりの一環に位置づけ、転学・復学・自立支援活動における行政機関との協働、地域の事業所や農家と連携した活動を通じ、地域住民の支援を得ながら、人と人のかかわりを大切にされた地域住民に愛されるフリースクールの運営と、お互いに支えあい補いあえる地域づくりを進めた。</p>
<p><b>悠遊スマイル賞</b></p> <p>森林資源等を活かす農山村振興・賑わい創り</p>	<p>特定非営利活動法人 美しいやまがた 森林活動支援センター (南陽市)</p>	<p>置賜地域において、農山村が持つ財産である文化、物、人に注目し、地域を活性化させるための活動として、森林におけるイベント・森林活動支援、グリーンツーリズムによるこども農山漁村交流、巨木や草木塔に見られる景観・文化価値の再発見などを実施。地域住民の対話を大切にし参加を得ることで、都市と山村との交流を積極的に展開した。</p>
<p><b>環境フロンティア賞</b></p> <p>トヨタカローラ山形「環境問題対応活動」</p>	<p>トヨタカローラ山形株式会社 (山形市)</p>	<p>県内の販売店における環境保全対応(太陽光発電による省エネルギー、リデュース・リユース・リサイクルの3Rの実践、環境マイスター制度導入)に会社を挙げて取り組むとともに、県環境学習支援団体として認定を受け、環境保全に関する普及啓発・教育活動としてエコ・ドライブ教室、自動車産業教室を開催した。</p>
<p><b>ふるさとかけはし賞</b></p> <p>農業体験、漁業体験などを中心とした都市と田舎の交流事業</p>	<p>特定非営利活動法人 田舎時間 (東京都江戸川区)</p>	<p>都市に生活する若者の目で地域資源を掘り起こし、上山市を中心に農業体験を柱とした田舎体験旅行を企画・実施し、地元農家の協力を得ながら都市農村交流を展開し、農業への理解や交流人口の拡大を図り、地域振興につなげた。</p>
<p><b>建農チャレンジ賞</b></p> <p>「果樹剪定枝の有効活用実験」における再資源化・普及製品開発活動</p>	<p>高谷建設株式会社 (村山市)</p>	<p>果樹農家から一般廃棄物として排出される大量の「果樹剪定枝」を収集し、行政・農協・果樹農家・民間企業が協働して再資源化を行う活用実験に全面的に協力。今後の取組みの広がりが期待される敷きわら等への再資源化を図り、果樹農家・地域住民の意識向上、野焼きによる煙・火災発生等地域住民が抱える諸問題の解決に貢献した。</p>

2010年（平成22年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>不登校、引きこもり等 青少年の社会的自立 への支援活動</p>	<p>特定非営利活動法人 東北青少年自立援助 センター（上山市）</p>	<p>不登校、引きこもり等により社会的自立が困難になっている青少年に対して、蔵王の恵まれた大自然の中での集団生活、共同生活を通じ、社会的自立への援助を行うとともに、保護者への子育てに関する相談・研修事業を行い、不登校や引きこもり等の状況から脱却する機会を提供した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>少子高齢社会に生き がいと活力を与える 活動</p>	<p>特定非営利活動法人 まごころサービス さくらんぼ（寒河江市）</p>	<p>少子高齢社会に対応するため、NPO法人として県で初めて、訪問介護員養成事業に取り組むとともに、介護を必要とする人々に対する指定訪問介護事業等の介護サービスの提供、高齢者に対する食事の準備等の生活援助サービスを提供する助け合いサービス事業、急用ができた時に子どもを預かるお子様一時預かり事業等に積極的に取り組んだ。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>里地里山の希少動植 物生息環境保全活動</p>	<p>鮭川村自然保護委員会 （鮭川村）</p>	<p>大学等の研究者・専門家と連携して、ギフチョウ属をはじめとした希少動植物の生育環境の保全を進めるとともに、里地里山の価値を地域内外に発信し、住民や行政等関係者との協働により、住民の生活と自然環境が両立できる地域を目指して活動に取り組んだ。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>夢を育み未来に羽ば たく高校生の国際貢 献</p>	<p>山形県立東根工業高等 学校（東根市）</p>	<p>世の中に役に立つものづくり活動の一環として、手作りで太陽電池パネルを製作したことをきっかけに、NPO法人との協働により、電力が安定供給されていないバングラデシュへの太陽光発電システムの設置と技術指導を行うなど、国際貢献活動に取り組んだ。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>まちの魅力を高める 高校生の公益活動</p>	<p>山形県立上山明新館高 等学校 食用ほおずき 研究班（上山市）</p>	<p>「ゆかたの似合うまちづくり」を盛り上げようと、地元のNPO法人と連携し、ゆかたに似合うアイテムとして食用ほおずきに着目した高校生と市民による「食用ほおずきプロジェクト」を立ち上げ、食用ほおずきの特産化を目指して取り組んだ。</p>

2011年（平成23年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>生きがいと絆を育む 地域ささえあい事業</p>	<p>特定非営利活動法人 いぶき（酒田市）</p>	<p>子どものみならず地域の人達も巻き込んだ自然体験活動等を通し、子どもの自然や地域を愛する心を育むとともに、大人も子どもも互いに育ちあう環境と、人と人との関わりを大切にされた地域づくりに取り組んだ。</p>
<p><b>復興きずな特別賞</b></p> <p>日帰りボランティア バス「スマイルエンジ ン山形」</p>	<p>山形大学・東北芸術工科 大学連携プロジェクト “smile tra de10%”（山形市）</p>	<p>学生が連携して週末日帰りで宮城県の被災地を訪れボランティア活動を展開する「学生ボランティアバス」を運行し、被災地の復興支援を行うとともに、東北の次代を担うリーダー育成を行った。</p>

<p><b>公益大賞</b></p> <p>演劇ショー『夢芝居』</p>	<p>山形県立置賜農業高等学校 演劇部（川西町）</p>	<p>演歌舞踊、お祭りダンス、振り込め詐欺防止コントからなる、お年寄りにも親しみやすい演劇ショー『夢芝居』を公演し、地域のお年寄りに楽しいひとときを提供した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>又新連部による地域及び団体等の活性化活動</p>	<p>山形県立村山農業高等学校 「又新連部」（村山市）</p>	<p>「花笠音頭」をアレンジした演舞など時代に合った独創的な演舞を各種イベントで披露し、地域活性化に取り組んだ。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>フィールドワークを通じた地域の活性化</p>	<p>山形大学エリアキャンパスもがみ 最上地区運営委員会（新庄市）</p>	<p>地域と大学が連携してフィールドワークやタウンミーティング等を実施し、学生との交流を通じた地域振興の基盤作りや地域の人材育成、地域活性化に取り組んだ。</p>

## 2012年（平成24年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>被災地復興支援活動及び避難者支援活動</p>	<p>ボランティアサークル 日曜奉仕団（寒河江市）</p>	<p>被災地での泥だし等の清掃活動やボランティアバスの運行等を行うとともに、寒河江市へ避難している方を対象とした避難者同士のコミュニティづくり、他地域へ避難している方との交流の場づくり等を行った。さらに、「被災地復興応援ツアー」としてボランティアに参加できない年齢層の方々等を対象としたツアーを実施した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>空家・空地・狭隘道路の一体的な住環境整備</p>	<p>鶴岡市ランド・バンク研究会（鶴岡市）</p>	<p>中心居住地の空洞化地域におけるまちあるきワークショップ活動や、住環境整備の研究検討、危険家屋の状況調査・解体整地を行うなど、空家・空地問題の解決に向けて活動した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>東日本大震災の被災地復興支援</p>	<p>山形大学農学部学生ボランティアプロジェクト「走れ！！わあのチャリ」（鶴岡市）</p>	<p>東日本大震災の被災地に、不用になった自転車を集め整備して届けるとともに、被災者との交流や泥だしなどの復興支援、アニマルセラピーなど農学部ならではの企画を通じた、被災者向けのケアなどの活動を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>東日本大震災支援活動</p>	<p>認定NPO法人IVY（山形市）</p>	<p>東日本大震災発生直後から被災地への物資支援や、国際協力の手法である雇用創出事業「キャッシュ・フォー・ワーク」などの支援を続けるとともに、コミュニティビジネス型NPO支援プロジェクトとして、山形市内に、福島からの避難者のための保育所設立を目指した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>行政と市民が協働する復興・支援活動の推進</p>	<p>生活クラブやまがた生活協同組合（米沢市）</p>	<p>阪神淡路大震災時に「ボランティア山形」を組織し、神戸市や西宮市を中心に支援活動を展開し、その後も災害時にはボランティア活動をした。東日本大震災においては、行政との災害協定に基づき、全国の生協、NPO、NGOなど市民団体とのネットワークを駆使して、ボランティアらの活動拠点の形成、避難所の立上げ、お茶会やバザーの開催などの支援活動を行った。</p>

<p><b>公益活動奨励賞</b></p> <p>EMを用いての環境に優しいまちづくり</p>	<p>花と緑・環境の会 (長井市)</p>	<p>長井市内4箇所の花の植栽管理や花壇づくりといった花のまちづくり活動や、EM(有用微生物群)を活用した河川の浄化活動を行うとともに、EMの正しい知識を広げるため、EMインストラクター養成講座を開催した。</p>
<p><b>公益活動奨励賞</b></p> <p>絶滅危惧植物オキナグサの増殖・保護活動「おきなの花道プロジェクト」</p>	<p>山形県立村山農業高等学校バイオテクノロジー部(村山市)</p>	<p>10年以上にわたり、培養技術を用いて県内に生息する絶滅危惧植物の増殖・保護活動に取り組んだ。今後は、オキナグサについて、オキナグサの保護ネットワーク「オキナの花道ネットワーク」を設立し、より一層の普及・啓発活動に取り組んでいく予定。</p>

## 2013年(平成25年度)

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>酒田の孟宗竹/カキ棚支援プロジェクト</p>	<p>認定NPO法人ひらた里山の会(酒田市)</p>	<p>荒廃竹林を整備するとともに、その除間伐された孟宗竹をカキ養殖棚用資材として加工し、津波でカキ養殖棚がすべて流出した宮城県松島町の漁業協同組合に提供する活動を行った。また、資材加工の際に生じた笹枝については、竹炭にし、燃料や土壌改良剤等として有効活用した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>食を通したまちおこし、まちづくり活動</p>	<p>特定非営利活動法人かほく冷たい肉そば研究会(河北町)</p>	<p>郷土食である「冷たい肉そば」で、県内外のイベントに出展し、河北町及び山形県のPR活動を実施した。ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」に山形県から初めて出展したほか、地元小中学生を対象に調理実習等行うなどの食育事業への協力や、食を通してまちおこしを行う県内の団体が加盟する「山形ご当地グルメまちづくり協議会」を設立し、まちおこし団体への支援活動を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>地域の絆で子供の安全・犯罪抑止を図る活動</p>	<p>赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会(南陽市)</p>	<p>「赤湯まっすぐ見守り隊」を組織し、児童生徒の下校時の見守り活動等を実施するとともに、毎年、小・中学校の通学路の危険箇所や有害環境の有無等について点検し、機関紙を通じて子どもや住民への注意喚起を行った。また、小・中学校だけでなく、幼稚園、保育園や保護者を対象として、不審者対応教室や非行防止教室等を開催した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>羽前小松駅を中心にしたまちづくり</p>	<p>えき・まちネットこまつ(川西町)</p>	<p>駅舎内で住民の憩いの場とする「和みCafé」や置賜地区の鉄道を利用したスタンプラリーを開催するとともに、「山形かわにし綾プロジェクト」を立ち上げ、高校生のチャレンジショップ「ぼーの」や若者のまちなかカフェ「こまつ屋」を運営した。さらに、中心市街地活性化のため、駅前を活用した朝市「駅前マルシェ」などを開催した。</p>

<p><b>公益大賞</b></p> <p>週末寺子屋 ～子ども大学～</p>	<p>特定非営利活動法人子ども支援フェイスブックプロジェクト (山形市)</p>	<p>福島県等からの避難世帯の小・中学生を対象に、毎週末、大学教員や地元住民、学生ボランティアが補助者となり、3時間の学習支援の会を実施し、さらに保護者同士の交流会や臨床心理士による相談会を開催した。その他、子どもたちの話し相手や居場所づくりとしても機能するよう、書道教室や理科実験教室等の様々なプログラムを実施した。</p>
---	--	---

## 2014年（平成26年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>山形県山辺町「大蔵棚田」の元気再生</p>	<p>グループ農夫の会 (山形市)</p>	<p>日本の棚田百選に認定された「大蔵棚田」の再生と存続を目的に、モンテディオ山形の協力を得ながら、棚田米の生産・販売やイベントの開催などを通し、棚田の再生、地域交流の活性化を図った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>地域に根差したクラブの取り組み</p>	<p>特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブ Y u i (小国町)</p>	<p>運動習慣推進事業・介護予防事業として高齢者向けの出前教室と Y u i キッズクラブスポーツ少年団(多種目体験型)の活動を通し、高齢者の健康維持や、子どもたちが生涯スポーツを行える機会の提供を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>知的障がいを持つ人の社会参加型就労支援</p>	<p>特定非営利活動法人山形自立支援創造事業舎(山形市)</p>	<p>障がい者やその家族に対する福祉の増進に寄与するため、知的障がいをもつ人々やその家族などに対して、より実践的な就労支援及び自立支援ならびに生活へのサポートなどに関する事業を行った。具体的には、知的障がい者自立支援事業(玉コン等の移動販売)や知的障がい者の就労の場創出事業などを行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>山形県で最初の福祉有償運送の活動</p>	<p>特定非営利活動法人山形移動サポートセンター(山形市)</p>	<p>腎臓透析患者の送迎を目的として活動を開始し、現在は高齢者の送迎や障がい児の送迎等も行った。80歳以上の運転ボランティアもおり、高齢者の生きがい創出・社会参加の場となった。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>東日本大震災発生に伴う避難者支援事業</p>	<p>やまがた絆の架け橋ネットワーク(山形市)</p>	<p>東日本大震災発生に伴い山形県への避難者に対する支援活動や被災地支援活動を行っていた複数の団体が連携して、やまがた絆の架け橋ネットワークを立ち上げ、各種情報を共有しながら、広範囲で効果的な活動を行った。</p>

## 2015年（平成27年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>桑から広がる農地復興プロジェクト</p>	<p>山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ (上市市)</p>	<p>東日本大震災の津波により、上市市の姉妹都市である宮城県名取市の農地が多大な塩害を被ったことから、塩害に強い「桑」を活用した農地復興プランを考え、桑を栽培することで除塩を促し、またその桑を食用として活用することで復興に貢献した。</p>

<p><b>公益大賞</b></p> <p>養護学校児童を対象とする放課後等デイサービス事業の活動</p>	<p>特定非営利活動法人 きずな（米沢市）</p>	<p>障がいをもつ児童とその保護者を取り巻く環境を改善するために、養護学校児童を対象とした「放課後等デイサービス事業」を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>芝ざくら桃源郷づくり</p>	<p>立谷川の花さかじいさん（天童市）</p>	<p>荒廃していた立谷川河川敷とその周辺を、ゴミを捨てられないような美しい環境にするために、平成17年から、清掃、雑木伐採、整地及び植栽を行い、環境整備を図った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>高齢者いきいきサービス・子育て広場・家事援助・新みんなの居場所づくり</p>	<p>特定非営利活動法人 さわやかサロン（金山町）</p>	<p>高齢者や小さい子をもつ母親が生活しやすい環境を創るために、高齢者デイサービス事業、子育て支援事業、家事援助事業、みんなの居場所づくり事業を行った。また、活動機関紙「さわやか」を年2回発行し、町内全戸に配布した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>「次代を担う子どもたちに3Dプリンターを贈ろう！」-教育用3Dプリンター導入プロジェクト-</p>	<p>やまがたメイカーズネットワーク（天童市）</p>	<p>山形県の“未来”を創るための人材育成や絆づくり、活力あるコミュニティの形成等、持続可能な地域社会を実現するために、教育界・産業界・地域社会が連携し、地産地消の本県オリジナル3Dプリンター作成事業を行った。</p>

## 2016年（平成28年度）

活動名	団体名	活動の概要
<p><b>グランプリ</b></p> <p>あいらぶ末広 楽市楽茶</p>	<p>あいらぶ末広 楽市楽茶（山形市）</p>	<p>山形市末広地区に住む高齢者や若者など様々な住民や地区に縁のある方々が交流し活動を共にすることで、互助・共助の仕組みを作るとともに、地域の活性化を目指し、2ヶ月に一度「楽市楽茶」という青空市やバザー、お茶会等を開催し、地域の賑わい作りの創出、地域住民が集う「場作り」の実施及び顔の見える関係性の構築を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト</p>	<p>新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会（新庄市）</p>	<p>旧蚕糸試験所・新庄市エコロジーガーデンの保存と利活用を図るとともに、当施設を拠点とした地域の交流拡大を目指すため、地域の農作物や加工品等を対面販売するマルシェや芸術祭等を開催した。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>山形県での地域コミュニティを含めた公益活動セクターへの支援活動</p>	<p>特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル（山形市）</p>	<p>山形県内において、地域や分野を越えたNPOの活動基盤強化及びネットワーク構築を、企業や行政との協働により促進し、住みよいコミュニティの形成に寄与することを目指し、山形市市民活動支援センターの指定管理や復興ボランティア支援センター山形の運営等を行った。</p>

<p><b>公益大賞</b></p> <p>福島原発災害による避難児童と山形県民の交流およびカウンセリング受付事業</p>	<p>寺子屋子ども大学 (山形市)</p>	<p>東日本大震災後、福島県からの避難世帯の子どもたちを対象とした学習支援に端を発し、山形県内の子どもをも対象とした理科実験教室や音楽教室などの特別授業を開催した。また、避難者の心のケアに取り組むため、臨床心理士と連携して個別カウンセリング事業を行った。</p>
<p><b>公益大賞</b></p> <p>出会う、つながる こしやってマルシェ</p>	<p>くしびきこしやってプロジェクト (鶴岡市)</p>	<p>「手作り」をテーマに様々な「出会い」「つながり」を通して、庄内・鶴岡らしいライフスタイルやこの地域に暮らす魅力の共有に貢献し、幅広い世代の市民に地域の魅力を発見してもらう場づくりを行うことを目指し、年4回の手作り市「こしやってマルシェ」の開催のほか、木工体験ワークショップ等を行った。</p>

### やまがた公益大賞応募及び受賞団体数

年度	応募団体数	受賞団体数
平成19年度	17	5
平成20年度	13	5
平成21年度	9	5
平成22年度	6	5
平成23年度	7	5
平成24年度	12	7 (うち2団体は公益活動奨励賞)
平成25年度	10	5
平成26年度	9	5
平成27年度	8	5
平成28年度	8	5

---

# 資料編

---

やまがた公益大賞選考委員一覧

平成28年度やまがた公益大賞選考基準等（参考）

---

## やまがた公益大賞選考委員一覧

※所属名には、選考委員就任当時の役職等を掲載しております。

※やまがた公益大賞の選考は、平成19年度は「やまがた公益大賞選考委員会」、  
平成20年度以降は「山形県NPO推進委員会」により行っております。

### 平成19年度 やまがた公益大賞選考委員会委員

氏名	所属名	備考
渋川 智明	東北公益文科大学 教授	委員長
鈴木 利右エ門	特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル 代表理事	
佐藤 丈晴	酒田市議 特定非営利活動法人 パートナシップオフィス 理事	
沼野 慈	特定非営利活動法人 山形創造NPO支援ネットワーク 代表理事 特定非営利活動法人 NPOもがみ 代表理事	
青木 範雄	特定非営利活動法人 山形創造NPO支援ネットワーク 元代表	
松田 久美子	山形県社会福祉協議会 地域福祉部長	
桑嶋 誠一	株式会社山形新聞社 論説副委員長	
本間 弘信	東北電力株式会社山形支店 副支店長	
佐藤 嘉高	山形県文化環境部 県民文化課県民活動推進室長	

### 平成20年度 山形県NPO推進委員会委員

氏名	所属名	備考
半田 結	東北公益文科大学 准教授	委員長
穴澤 雅之	東北電力株式会社山形支店 広報・地域交流部長	
五十嵐 幸枝	ビジネスオフィスClear 代表	

桑嶋 誠一	株式会社山形新聞社 論説委員長	
小林 潔	株式会社山形銀行 くらしと経営の相談所長	
齋藤 緑	特定非営利活動法人あらた 代表理事	
沼野 慈	特定非営利活動法人NPOもがみ 理事長	
中山 順子	山形県文化環境部県民文化課県民活動推進室長	

#### 平成21～22年度 山形県NPO推進委員会委員

氏名	所属名	備考
半田 結	東北公益文科大学 准教授	委員長
吉野 剛朗	株式会社山形新聞社 論説委員	副委員長
青木 孝弘	特定非営利活動法人 長井まちづくりNPOセンター 事務局長	
五十嵐 幸枝	ビジネスオフィス Clear 代表	
海谷 美樹	特定非営利活動法人 Yamagata1 コンソーシアム 代表理事	
小林 潔	株式会社山形銀行 くらしと経営の相談所 部長代理	
齋藤 亜紀	株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ研究員	
齋藤 緑	特定非営利活動法人あらた 代表理事	
高橋 修	ネットヨタ山形株式会社 代表取締役社長	
高山 恵美子	特定非営利活動法人 子育てネットワークバルボンさん 代表理事	

平成23～24年度 山形県NPO推進委員会委員

氏名	所属名	備考
半田 結	東北公益文科大学 准教授	委員長
吉野 剛朗	株式会社山形新聞社 論説委員	副委員長
岩浪 美穂	特定非営利活動法人アンプ 理事（兼）事務局長	
海谷 美樹	特定非営利活動法人 Y a m a g a t a 1 代表理事	
後藤 博	株式会社山形銀行 地域振興部 調査役	
齋藤 亜紀	株式会社フィデア総合研究所 経営情報グループ 経営コンサルタント	
齋藤 緑	特定非営利活動法人あらた 代表理事	
佐藤 登美子	有限会社佐藤税務会計事務所	
白石 祥和	特定非営利活動法人 W i t h 優 代表	
高橋 修	ネットヨタ山形株式会社 代表取締役社長	

平成25～26年度 山形県NPO推進委員会委員

氏名	所属名	備考
武田 真理子	東北公益文科大学 准教授	委員長
佐々木 裕孝	株式会社山形新聞社 論説委員	副委員長
松田 美由紀	株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ研究員	
海谷 美樹	特定非営利活動法人 Y a m a g a t a 1 代表理事	
齋藤 美穂	特定非営利活動法人アンプ 理事（兼）事務局長	

白石 祥和	特定非営利活動法人W i t h 優 代表	
佐藤 香奈子	特定非営利活動法人元気王国 理事長	
國井 篤 (平成25年度)	株式会社山形銀行 営業支援部調査役	
大友 誠 (平成26年度)	株式会社山形銀行 営業支援部チーフ調査役	
武田 靖子	株式会社パレス平安 取締役社長室長	
岡村 いち子	岡村いち子税理士事務所 所長	

平成27～28年 山形県NPO推進委員会委員

氏 名	所 属 名	備 考
武田 真理子	東北公益文科大学 准教授	委員長
吉野 剛朗 (平成27年度)	株式会社山形新聞社 論説委員	副委員長
板垣 仁樹 (平成28年度)	株式会社山形新聞社 論説委員	副委員長
松田 美由紀	株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ研究員	
奥山 奈津子	特定非営利活動法人 西沼田サポーターズ・ネットワーク 学芸員	
工藤 浩三	特定非営利活動法人NPOもがみ 理事	
川崎 麻恵	特定非営利活動法人長井まちづくりNPOセンター 理事	
佐藤 香奈子	特定非営利活動法人元気王国 理事長	
大友 誠	株式会社山形銀行 営業支援部チーフ調査役	
武田 靖子	株式会社パレス平安 取締役社長室長	
國井 美保	東北公益文科大学 公益ビジネスプロジェクト学外研究員	

## 平成28年度やまがた公益大賞選考基準等

## 1 目的

地域課題の解決に取り組む様々な公益活動を顕彰し、県民に広く紹介することにより、公益活動への県民の関心を高め、積極的な参画を促すとともに、NPOをはじめとした県民の公益活動を活性化することを目的とする。

## 2 顕彰の対象

- (1) 山形県内に拠点を有する、NPOをはじめとする団体や企業などが取り組んでいる公益活動で、山形県内において大きな成果を収めている（収めた）活動
- (2) 継続中のものを含め2年以内に行われた活動で、今後も継続が見込まれる活動
- (3) これまでに国又は県から表彰を受けていない活動

※ 平成23年度より、東日本大震災に関する支援活動について、山形県内のほか他県の被災地における活動も広く顕彰の対象としている。

## 3 選考基準

## ア 活動の効果

- (ア) 地域課題の解決への寄与（活動により、地域課題の解決に寄与したか）
- (イ) 活動の範囲、幅（活動範囲や受益者は、ある程度広いか）
- (ウ) 地域への波及効果（活動は地域に定着し、波及しているか）

## イ 活動のモデル性

- (ア) 必要性（社会的な意義、緊急性が高い活動か）
- (イ) 先駆性・独創性（独自のアイデア等による先駆的な取り組みか）
- (ウ) 継続性（継続的に取り組まれているか、今後の継続が見込まれるか）
- (エ) 協働性（他団体との連携、協働への意識が高いか）

## 4 選考方法

山形県NPO推進委員会において、プレゼンテーション審査（応募書類及び応募団体による説明をもとに審査）を公開で実施。

## やまがた公益大賞 10周年記念誌

平成28年11月発行

編集・発行 **山形県企画振興部県民文化課**

〒990-8570

山形県山形市松波二丁目8番1号

電話 (023) 630-2122